

## V 学生支援について

### 【入学に関する支援について】

(1) 入学志願者に対し、当該短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

建学の精神や教育課程については、本学 Web ページ (<http://www.kinjo.ac.jp/kjc/>) において、「教育理念」や「学長室」で述べられている。「教育理念」の中で理事長は、「手づくりの温かさをもった教育」を基本理念とし、「教育とは学生と先生の全人格のぶつかり合いの中から生まれてくる学生への影響。しかも何らかのよい影響」という考え方を基に、教職員は常に真剣に学生達と向かい合うことを教育哲学としている。また、「学長室」で学長は「啐啄同時（そったくどうじ＝機を得て、両者が相応ずること）」という言葉为例にあげ、本学教職員と学生との望むべき関係を述べている。さらに、本学短期大学案内にも同様に現理事長と学長の教育理念が述べられている。

設置学科の教育目的と、求める学生像については、短期大学案内に学科概要として掲載されている。なお、学科の求める学生像については、次に述べる募集要項の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）にも記載されている。

◆別冊添付資料No.1「金城大学短期大学部案内」 p.13, p.17, p.30

(2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦，一般，AO入試など）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

入学者選抜の方針、選抜方法の明示については、募集要項に入学者受け入れ方針として記載している。各学科の試験制度ごとに記述し、受験生が試験内容を理解しやすいように配慮している。

◇参考資料No.16「金城大学短期大学部募集要項」 pp. 4-5, pp. 8-9, pp. 12-13  
学科別・試験別の判定基準は、受験ガイドに明示している。

◇参考資料No.17「受験ガイド」 p. 3, p. 6, p. 9

なお、AO制入学試験については、手続きなどが他の試験制度と大きく異なっているため、受験ガイドにその詳細な内容を載せている。◇参考資料No.17「受験ガイド」 p. 4, p. 7

(3) 広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験者等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

本学では、入試・広報に関する業務を、入試広報部で担当している。構成は、教員 7 名、事務職員 2 名である。同一キャンパス内に併設している金城大学社会福祉学部の入試広報

組織と共同して業務に携わっている。

運営面では、入学試験やオープンキャンパスなどの学校行事は、規模や回数も多く、全教職員で運営している。

また、入試広報部の教員として、各学科長が構成メンバーとなり、主に入試広報に関する各学科教員間の調整の役割を果たしている。この結果、学科ごとに配置された教員との連携がスムーズになっており、これこそが本学入試広報の大きな特徴である。

入学試験以外の入試や広報事務については、部長及び事務組織で対応している。

入学志願者や受験生などからの問い合わせについては、電話・FAX・E-mail を利用して対応している。

**(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者（特に責任者を設けてない場合は事務局長等の事務の責任者）は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。（入学願書等を参考資料としてご準備下さい。）**

選抜方法とその概要は以下のとおりである。

#### ① A O（アドミッション・オフィス）制入学試験

##### a 美術学科

###### i 面談申し込み

- ・期間 7/1(金)～12/2(金)
- ・本人と連絡を取って面談日を決定する。
- ・面談申し込みがあった旨、本人と在籍高等学校へ書類で通知する。

###### ii 面談

- ・7月～11月の第四土曜日、8/5のオープンキャンパス最終日、12/10のオープンキャンパス開催日に実施する。

###### iii A Oリストに登録

- ・面談の結果、合格レベルに達していると判断された受験生をA Oリストに登録し、その旨、本人と在籍高等学校へ書類で通知する。

###### iv 出願

- ・A Oリストに登録された受験生は、出願期間（11月合格：11/1(火)～11/9(水)、12月合格：12/1(木)～12/15(木)）に合わせて書類等提出する。

###### v 合否判定

- ・11月合格と12月合格のそれぞれ合否判定までに、A Oリストに登録されており、かつ出願のあった受験生に対し、判定会で合否判定を行う。

###### vi 合否通知

- ・合格発表日（11月合格：11/19(土)、12月合格：12/21(水)）の前日夕方に、本人と出身又は在籍高等学校長あてに合否通知を郵送する。

## b ビジネス実務学科

### i 面談申し込み

- ・期間 8/1(月)～11/21(月)
- ・本人と連絡を取って面談日を決定する。
- ・面談申し込みがあった旨，本人と在籍高等学校へ書類で通知する。

### ii 面談

- ・8月～11月の第四土曜日，8月と12/10のオープンキャンパス時に実施する。
- ・面談は2回実施する。
- ・1回目の面談の後に，レポートなどの課題を出題する。レポートは次の面談時に提出してもらう。
- ・1回目の面談時に，「AO入試エントリーシート」を受験者に渡し，次の面談時に持参するように伝える。

### iii AOリストに登録

- ・2回の面談の結果，合格レベルに達していると判断された受験生をAOリストに登録し，その旨，本人と在籍高等学校へ書類で通知する。

### iv 出願

- ・AOリストに登録された受験生は，出願期間(11月合格：11/1(火)～11/9(水)，12月合格：12/1(木)～12/15(木))に合わせて書類等提出する。

### v 合否判定

- ・11月合格と12月合格のそれぞれ合否判定までに，AOリストに登録されており，かつ出願のあった受験生に対し，判定会で合否判定を行う。

### vi 合否通知

- ・合格発表日(11月合格：11/19(土)，12月合格：12/21(水))の前日夕方に，本人と出身又は在籍高等学校長あてに合否通知を郵送する。

## ② 併設校推薦制入学試験

### i 出願

- ・出願期間(10/17(月)～10/18(火))

### ii 試験

- ・試験日 10/23(日)
- ・ビジネス実務学科は，面接試験を実施する。
- ・幼児教育学科は，面接試験とピアノ試技を課している。
- ・美術学科は，受験者の選択により実技試験(デッサン又は想像画)か，又は作文と面接試験を実施する。ただし，美術系自主講座《美術入門・専攻講座A・専攻講座B・デッサン》を2講座以上受講済み若しくは受講終了見込みの者に限り，面接のみとする。

### iii 判定会

- ・試験結果を基に合否判定を判定会で行う。

### iv 合否通知

- ・10/26(水)までに，併設校高等学校長あてに受験者全員の合否の通知をする。正

式な合否通知については、学校長/専門・総合学科推薦制試験の合格発表日（11/19(土)）の前日夕方に、本人と併設校高等学校長あてに合否通知を郵送する。

③ 学校長推薦制入学試験，専門・総合学科推薦制入学試験

i 出願

- ・出願期間（11/1(火)～11/9(水)）

ii 試験

- ・試験日 11/15(火)
- ・ビジネス実務学科，幼児教育学科は，面接試験を実施する。
- ・美術学科は，受験者の選択により実技試験（デッサンまたは想像画）か，作文と面接試験を実施する。

iii 判定会

- ・試験結果を基に合否判定を判定会で行う。

iv 合否通知

- ・合格発表日（11/19(土)）前日夕方に，本人と出身又は在籍高等学校長あてに合否通知を郵送する。

④ 自己推薦制入学試験

ビジネス実務学科のみ実施する。

i 出願

- ・出願期間（12/1(木)～12/14(水)）

ii 試験

- ・試験日 12/17(土)
- ・筆記試験（作文）と面接試験を実施する。

iii 判定会

- ・試験結果を基に合否判定を判定会で行う。

iv 合否通知

- ・合格発表日（12/21(水)）前日夕方に，本人と出身又は在籍高等学校校長あてに合否通知を郵送する。

⑤ 試験制入学試験

A，B，C日程の計3回実施する。A日程については，地方会場でも実施する。

i 出願

- ・出願期間

A日程（1/10(火)～1/26(木)），B日程（2/8(水)～2/16(木)），

C日程（2/27(月)～3/9(木)）

ii 試験

- ・試験日

A日程 2/1(水)－本学会場，2/2(木)－地方会場（福井，富山，新潟），

B日程 2/22(水)，C日程 3/14(火)

- ・ビジネス実務学科，幼児教育学科は，筆記試験（国語総合[古文，漢文を除く]と英語Ⅰ・Ⅱから1科目選択）と面接試験を実施する。
- ・美術学科は，受験者の選択により，実技試験（デッサンまたは想像画）又は作文と筆記試験（国語総合[古文，漢文を除く]と英語Ⅰ・Ⅱから1科目選択）のどちらかを選択し，併せて面接試験を実施する。

iii 判定会

- ・試験結果を基に合否判定を判定会で行う。

iv 合否通知

- ・合格発表日（A日程(2/8(水)，B日程(2/25(土)，C日程(3/20(月))前日夕方に，本人と出身又は在籍高等学校長あてに合否通知を郵送する。

⑥ 試験制入学試験（専攻科福祉専攻）

I期，II期，III期の計3回実施する。

i 出願

- ・出願期間

I期（10/3(月)～10/19(水)），II期（12/1(木)～12/14(水)），  
III期（2/8(水)～2/16(木)）

ii 試験

- ・試験日

I期 10/23(日)，II期 12/17(土)，III期 2/18(土)

- ・筆記試験（小論文）と面接試験を実施する。

iii 判定会

- ・試験結果を基に合否判定を判定会で行う。

iv 合否通知

- ・合格発表日（I期(10/26(水)，II期(12/21(水)，III期(2/25(土))の前日夕方に，本人と在籍高等学校長あてに合否通知を郵送する。

⑦ 現在の入試実施状況及び今後の問題点について

本学では多彩な入試制度を設定しているが，選抜方法ごとの入試は正確かつ公正に実施できていると考えている。現在，本学の入学者数状況は比較的良好である。また，来年度には，大学入試センター試験利用入試を導入予定である。

今後の問題点としては，近年少子化の影響で大学入試環境が大きく変化してきており，それへの対応に苦勞させられていることがある。広報業者や高校現場への対応，オープンキャンパス実施や本学内容告知の工夫など，10年前には想像もできなかった業務やその内容の変化に，迅速かつ効果的な対応が求められている。

将来を見据え入試や学生募集についてのノウハウを共有していくために，比較的年齢の若い教員と学科長が協力して，入試広報業務に携わっていくことが必要であると考えている。

◇参考資料No.17「受験ガイド」

**(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。**

入学までの間、授業や学生生活についての情報提供については、各試験における合否通知後、定められた期間内に入学手続きを行った合格者に対して、「入学までのご案内」を送付して、入学式や入学までの準備について情報提供を行っている。また、下宿やアパートなどの紹介を希望する学生には、アパート一覧表を送付している。

◇参考資料No.18「入学までのご案内」

**(6) 入学後（入学直前を含む）、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。**

入学式後の2日間にわたって、新入生対象のガイダンスを実施している。

1日目午前は、学科ごとに各部局からの全体説明を行う。午後には、教務部から履修や単位取得に関する説明をし、その後履修登録を行う。2日目は、学科長挨拶や教員紹介を行い、その後、各クラス別にミーティングを行う。

また、ビジネス実務学科では、「基礎教養」の授業の一部として、入学後の第2週目に合宿研修を行い、学生相互・学生クラス担任間の親睦を図っている。

◇参考資料No.19「ガイダンス要項」

◇参考資料No.3「短大だよりNo.40」p.4

### 【学習支援について】

**(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。**

入学後のガイダンスは、前述のように履修に関する説明を行っている。また、1年前期の期末試験の初日に、定期試験に関する諸注意や手続きについてのガイダンスをクラス担任が行っている。1年後期以降は、各学期の初めに、1年と2年と別々の日に学科ごとのガイダンス・履修登録及びクラスミーティングの内容でガイダンスを行っている。この時、後述するように再履修が必要な学生に対しては、個別の履修相談・指導を行っている。

**(2) 学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）を発行していれば参考資料としてご準備下さい。**

「科目概要Ⅰ」（1年生対象授業）・「科目概要Ⅱ」（2年生対象授業）を配付している。また、資格取得のための「Career Up! 資格取得サポート体制のご案内」を、ビジネス実務学科の学生に配付している。

◇参考資料No.20「科目概要Ⅰ・Ⅱ2006」

◇参考資料No.21「Career Up! 資格取得サポート体制のご案内」

**(3) 基礎学力が不足している学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。**

現状では、補習授業等の組織的取組みは行っていない。

全国的には、ゆとり教育世代の入学により基礎学力の低下が問題となっているが、本学では、ここ数年、入学応募状況も良好で、極端に基礎学力が不足している学生は減少している。各教科担当者は、学生のレベルに合わせた授業展開と、その底上げに日頃から努力している。また、クラス担任や教科担当者が個別指導を行う場合もある。

**(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。**

オフィスアワーは特に設けていないが、専任の教員は常に学内におり、学生の教育に当たることを原則としている。昼休みや授業後に、学生が教員の研究室を訪れる姿が日常的に見られる。さらに、クラス担任を中心に後述するカウンセラーや教科担当者が相談に応じている。

また、全学科で行っているコンピュータの演習科目では、事務職員（2名）を配置し、担当教員と共にきめ細やかな指導に心掛けている。さらに、授業以外の時間には、学生がいつでも使えるコンピュータ（17台）のある準備室で学生の質問等に対応している。

**(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。**

ビジネス実務学科では、一部の科目で履修免除による単位認定と、各種の検定試験対策講座を行っている。

ビジネス実務学科の基礎科目の一部は、三学科の中でも高校での学習内容と一番関連性が強い。特に、会計実務（簿記）やコンピュータの基礎演習では、高校での学習履歴差が大きい。その差が本学での1科目の学習範囲以上の場合、既習者に対しての対策として、本人の申請及び必要に応じて実力試験を経て、当該科目の履修を免除し、単位認定している。この履修免除制度は、平成14年度の試行を経て、平成15年度から本格実施したもので、3年間の状況を表V-1に示す。「会計実務Ⅰ及びⅡ」は、日商簿記検定3級レベルを目標としているが、入学時にそのレベルを超えている学生が増加し、履修免除者も増加している。その中には、日商簿記検定2級の取得者が昨年度と同様に4名含まれる。これらの履修免除学生を対象に「全経簿記検定1級及び日商簿記検定2級対策講座」、「上級簿記検定講座」を開講している。また、初級システムアドミニストレータの取得者の入学で、「情報科学Ⅰ及びⅡ」の免除が初めて適用された。

表V-1 ビジネス実務学科での履修免除制度

科目名	免除者数		
	平成 17 年度入学	平成 16 年度入学	平成 15 年度入学
ビジネス文書演習 I	4 名	5 名	6 名
ビジネス文書演習 II	0 名	0 名	0 名
情報科学 I	1 名	0 名	0 名
情報科学 II	1 名	0 名	0 名
表計算演習 I	8 名	4 名	3 名
表計算演習 II	0 名	5 名	0 名
Web ページ演習	0 名	2 名	0 名
プログラミング基礎演習 I II III	0 名	0 名	0 名
会計実務 I	16 名	14 名	7 名
会計実務 II	14 名	17 名	5 名
会計実務 III	5 名	2 名	1 名
会計実務 IV	—	0 名	0 名
工業簿記 I	5 名	4 名	0 名
工業簿記 II	—	0 名	0 名

◇参考資料No.21「Career Up! 資格取得サポート体制ご案内」p.26

### 【学生生活支援体制について】

**(1) 学生生活を支援するための組織や体制（教員組織，事務組織のいずれも）の現状を示して下さい。**

本年度の学生部は、幼児教育学科，美術学科，ビジネス実務学科の教員と事務員で構成されているが，昨年度よりも2名の教員の配属が増え，よりきめの細かい支援につながるよう努力した。

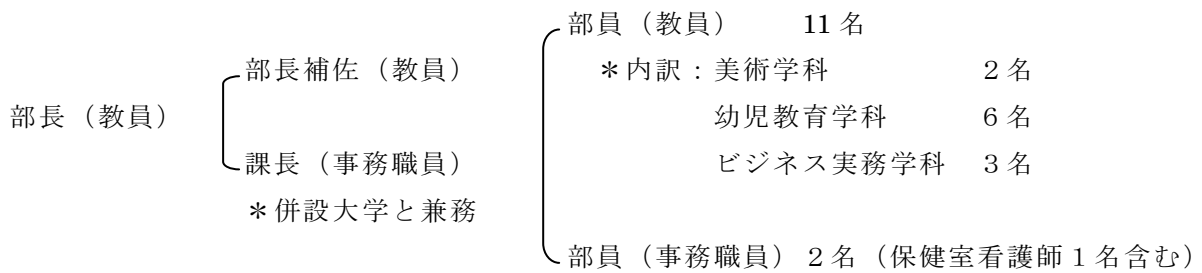
学生部の組織は，教員から学生部長1名，同補佐1名，担当教員9名，事務職員から学生課長1名，担当事務員1名の合計13名で構成され，また，クラス担任22名にも協力をお願いしている。本学の専任教員には，毎朝ミーティングでクラスへの掲示物の配付や情報の伝達及び確認と周知の依頼等が行われている。

さらに，各クラス担任は，クラスごとに5分程度の朝礼を行い，各学生の出欠状況の確認や種々の伝達等を行っていて，修業状況や生活状況の掌握に努めている。近年は，学生たちの携帯電話番号やメールアドレスを掌握して，日々の支援や指導に役立てている担任も増加していて，本学ではかなり浸透してきているが，更なるネットワークを含めた情報の配信体制の拡充を図ることに努めたいと考えている。学生証の発行・各種証明書の発行，許可書の申請受付，奨学金の説明と手続き，学割の発行，遺失物等の受付，各種問い合わせへの対応等は事務室カウンター窓口で行っている。また，各種案内，連絡，注意事項等は学生部用の掲示板に掲示し告知して，できるだけ学生に親切で丁寧な対応になるよう心掛けている。なお，事務室には教員である学生部長の席も確保されていて，教員と事務員

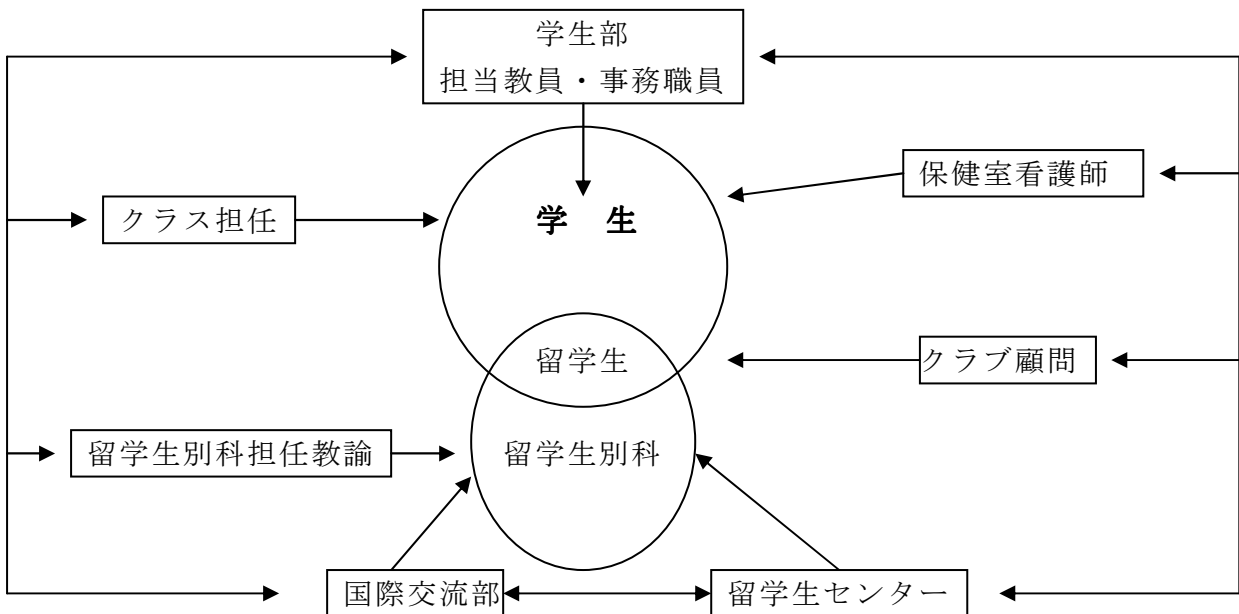
の連携がスムーズに運ぶよう配慮されている。

組織図としては下図V-1のようになり、支援活動は下図V-2のようになっている。

〔図V-1〕



〔図V-2〕



**(2) 当該短期大学のクラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短大祭等）の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。**

① クラブ活動の現状

年度当初に実施される一年生のガイダンス時に、クラブ活動の紹介を行い、各部や同好会が勧誘を行っている。今年度は、体育系部活動 12、文化系部活動 9、同好会 12、登録された各活動学生数は 210人、加入率 24.6%で、前年度と比較して大きな変化はなかった。活動は、基本的には短大と四大合同のクラブ組織として扱っているが、短大中心のクラブ、四大中心のクラブ、双方合同のクラブ等に分類され、学友会から援助金が分配されている。近年の傾向としては、技能の向上や試合での好成績を目指すハードな練習を伴う活動は敬遠されがちで、楽しさや友情を育む場として考える学生が増えてきている。

- 体育系 女子バレーボール、卓球、キンボール、硬式テニス、バスケットボール、硬式野球、バドミントン、陸上、ソフトテニス、ダンス、準硬式野球、バトントワリング
- 文化系 華道、茶道、マーチング、音楽、コーラス、箏曲、演劇、操演、イラスト
- 同好会 サークルS、バレーボールアカデミー、ボーリング同好会、W i s h、M F S、

DDSS, サークル湖, エイジング・ケア, 金城一座竹とんぼ, PHDサークル1,  
ぽっかぽか, LIBRA

## ② 学友会の現状

学友会行事の計画立案と、運営への支援や予算・決算の会計指導等に、学生部がアドバイスし協力する形で運営している。同一キャンパス内に併設している大学との共催や協力を努力した結果、年々相互の理解が深まり、友好的な関係が構築されつつある。

学友会の各行事に対する決議や承認は、各クラスより選出されたクラス代表、美化委員、体育委員、学園祭実行委員によるそれぞれの会議並びに委員会で行われている。

## ③ 学園行事（学園祭、短大祭等）の実施状況

本学の学生が参画し実施している学園行事は、体育祭、北陸三県私立短期大学体育大会、金城祭（本学の学園祭）、卒業パーティー等が主なものである。

### a 体育祭

本年度の体育祭は、5月13日（金）に開催した。体育委員や学友会役員及び指導教員、関係クラブの有志が審判等に協力し、競技進行に大きな力となってくれた。卓越した技術や能力を求めない気軽に参加できる競技種目も組み入れられ、バレーボール、卓球、ソフトテニス、ソフトボール、バスケットボール、ドッジボール、アームレスリング、チームジャンプ、綱引き、リレーと多岐に渡り繰り広げられた。クラス対抗戦の形式のため応援も積極的で、学生にとって有意義で楽しい一日であったと思える。

### b 北陸三県私立短期大学体育大会

今年度は、富山市で富山福祉短期大学の主管により運営された。期日は6月25日（土）、26日（日）の二日間であり、本学からは、教職員12名、学生100名の選手団を組み参加した。成績は、バレーボールと卓球シングルスが優勝、バスケットボールと卓球シングルス及びソフトテニス個人が3位であった。特に、これまで優勝し続けてきた卓球の団体とダブルスが、エントリーの都合もあり優勝できなかったことは残念であった。同時に開催された北陸三県短期大学の学友会・学生会会議にも役員2名が出席し、大学祭・謝恩会・喫煙マナー・サークル活動等のテーマにより様々な意見交換をした。

### c 学園祭（金城祭）

「金城祭」は、10月28日（金）夕方の前夜祭で幕を開けた。翌29日（土）と30日（日）が本祭で、今年度のテーマは、「この指とまれ金城祭」であり、四大と短大の協力体制が構築されて、「みんないっしょに集まろう」という想いの象徴的テーマとなったように感じている。同一キャンパス内の併設校として相互の信頼及び協力関係が継続され、より発展することを願っている。内容は、メインゲストの「HOME MADE 家族」の演奏を中心に、各学科の研究発表・作品展示、クラブ活動の演奏・公演、学外団体も含めた数多くの模擬店の出店等である。キャンパス内で所狭しと繰り広げられた本学の学園祭は、来校者（入場者）も多く、短大としてはかなりの活気に満ちている行事となっており、全国各短大の学園祭に対する充実感の不足、開催意欲の減退傾向とは相反して、学生にとって満足度の高いものになっていると確信している。

### d 卒業パーティー

学友会が主催する恒例の卒業パーティーが、金沢市内のホテルで開催された。本年度も大変な賑わいで、専攻科を除くほぼ全員に近い卒業生約 400 名と、非常勤を含む教職員約 100 名の総勢 500 名が出席し、各クラス出し物等が繰り広げられた。学生部は、会場の事前予約、記念品の選定等側面から学友会に協力した。

**(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお訪問調査の際にそれらをご案内いただきます。**

① 学生の休息のための施設・空間

本学には、いわゆる学生会館等の休息のための独立した施設はない。学生の普段の休息場所は食堂になっている。ただし、クラス制を実施しているため、各学生が自由に身を置く場所としてそれぞれホームルームがあり、それなりに居場所は確保できていると考える。また、校舎の建築の際に、憩いの空間が設計の段階から意図的に配慮されていて、校舎全体が心安らぐ場となっている。中庭には学生が談笑できる空間もあり、テーブルやベンチも設置され不自由を感じさせない。

② 保健室

保健室は本館の二階に設けてある。さらに、隣接した部屋に学生談話室を設置し、カウンセリングや静養場所として利用している。保健室には毎日 9:00 ～17:00 時までの間、常時保健室看護師がその任に当たっている。設備は十分とは言えないため、社会福祉学部の保健室と連携を図り、学生の受け入れも含め協力体制を築いている。

③ 食堂

食堂は、短大側食堂（256 席）と大学側食堂（303 席）の二つがあり、いずれも利用可能だが、短大部学生の多くは校舎に近い食堂を利用している。営業は外部業者に委託しており、営業時間は 10:00～13:30 である。社会福祉学部開学により学生・教職員の利用者数が増えたことで、手頃な値段でメニューの種類も増えてきている。アンケートによる回答も充実度への評価が高くなってきている。なお、学生部内に役割として衛生担当を決めており、必要に応じて食堂の様々な環境と運営への要望や提言をしている。

④ 売店

売店は、大学側食堂と棟続きにあり、各種文房具、教材、食品等が販売されている。また、自動車教習所の案内や、外部より依頼があり学生部で許可した各種情報の提供も行っている。運営は食堂と同様に外部業者へ委託していて、営業時間は 8:30～17:00 である。学生部としては、品ぞろえや学生からの要望を受け止め提案している。

**(4) 当該短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）の概要を示して下さい。**

① 学生寮

本学には学生寮がないため、状況に対する特記はない。

② 下宿・アパート等の斡旋体制

本学は、学生の宿舎に対する、いわゆる斡旋としての業務は行っていない。しかし、希望者に対しては、本学学生部に情報の提供があった不動産会社、又は家主の各物件概要と住所・連絡先を、本学紹介物件として一覧表にまとめて発送している。

表V-2 本学自宅外通学者

年度	1年生	2年生	専攻科	合計(全学生に対する割合)
平成16年度	116名	83名	10名	211名(25%)
平成17年度	91名	116名	13名	220名(24%)

本学が紹介した本年度の物件は62件であり、入居希望者は、それぞれが直接連絡先に問い合わせをして確認及び交渉し契約している。各物件は、本学に通学する学生の宿舎として適切なものと判断したものであるが、契約の際は、必ず実際の建物や周囲の環境を直接見て確認することを指導している。毎年12月には家主等と懇談会を開いて、情報の提供や問題点を出し合い、双方の問題点改善を図っている。

③ 通学のための便宜

金沢市から本学まで一路線ではあるが、スクールバスを運行しており、一部の学生や教職員の交通手段として役立っている。利用者は約20名程度である。

④ 駐車場・駐輪場の設置

本学は、JR(加賀笠間駅)を利用する学生が多いが、自家用車での通学者も多い。本年度の自動車通学の登録者は307名(平成16年度=285名)であった。駐車場は、合計で約700台の駐車可能区域を設けている。同一キャンパス内の社会福祉学部の学生及び各教職員の登録台数を合わせても、十分な区画が確保されている。なお、年2回実施している安全講習会に、車の登録希望者は全員出席することを義務付けている。

駐輪場は、短大校舎に隣接した場所に屋根付きで2区画(約100台分)、同じく四大校舎側に1区画設けてある。当然、本学学生は近いほうの2区画を利用している。

**(5) 評価を受ける前年度の日本育英会等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また当該短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。**

① 外部奨学金取得状況

本学では、日本学生支援機構奨学金、石川県奨学金、私費外国人留学生学生等学習奨励費、石川県私費外国人留学生奨学金等を取り扱い、説明会を初め各種事務手続きや指導を行っている。また、近年は、専攻科学生を対象とした奨学金制度も増えてきている。

表 V - 3 各奨学金受給者数一覧

奨学制度の種類		受領者数				月額(円)	備考
		1年生	2年生	専攻科	合計		
日本学生支援機構奨学金	第一種	28	26	3	57	自宅 54,000 自宅外 64,000	貸与
	第二種	69	43	7	119	3~10万円	貸与
日本学生支援機構私費外国人留学生等学習奨励費		2	3	0	5	52,000	給付
石川県育英資金		3	2	0	5	43,000	貸与
石川県私費外国人留学生研究奨励費		0	2	0	2	30,000	給付
石川県介護福祉士修学資金		0	0	2	2	36,000	貸与
石川県生命保険協会介護福祉士養成奨学金		0	0	1	1	20,000	給付

② 本学独自の奨学金

本学独自の奨学金は、金城大学短期大学部奨学金規程により選考し給付している。規程の第二条に資格及び種類、第四条に支給方法を定めており、その内容は次のとおりである。

第二条 奨学生は次の3種類とする。

第一類 学業・スポーツ・芸術・社会的活動などにおいて顕著な成績を上げた者、若しくは上げると思われる者で、心身ともに健康であり勉学意欲のある者。

第二類 私費外国人留学生で、心身ともに健康であり勉学意欲のある者。

第三類 学業成績・人物ともに良好であるが、経済的事情の変化などにより修学の継続が困難となった者。

第四条 奨学は以下の方法で行う。

- (1) 第一類奨学生は学納金を減額又は免除する。
- (2) 第二類奨学生は学納金を減額若しくは免除又は奨学金を支給する。
- (3) 第三類奨学生は学納金を貸与する。

以上の条文に基づき、奨学委員会により精査され奨学金を決定している。

平成17年度の奨学生は、第一類10名、第二類18名、第三類は0名であった。社会情勢や景気の動向、失業率等の経済状況を把握し見極めながら、希望する学生にとってより有効な制度や基準となるよう改良を加えていくべきであると判断している。現在、本学の奨学金規程については、その制度と運用に検討を加えている。

**(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。**

① 学生の健康管理体制

学生の健康管理は、外部医療機関に委託して年1回4月に健康診断を行い、そのデータを基に、本学の保健室看護師が各学生の健康状態を把握し、必要に応じて個々に対応して

いる。また、急な発病やケガに対しても、保健室看護師が適宜対応している。

## ② 学生のメンタルケアやカウンセリングの体制

本学は担任制によるクラス編成のため、クラス担任が種々の悩みや相談を親身に受け止めてケアしたり、トラブル解消へのアドバイスを行っている。また、教員と兼務であるが、臨床心理士、教育カウンセラー、産業カウンセラー、看護師有資格者4人によるカウンセリングの体制を整えている。

## **(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。**

学生個々の情報の記録は、本学学生部としては次のものがある。

### ① 学生録（＊＝任意記載項目）

氏名、生年月日、住所、電話番号、最終出身校、＊出身校でのクラブ活動、＊職歴、保護者氏名、同住所、＊同職業、緊急連絡先、＊家族構成、＊趣味・特技を記載し写真を貼付した身上書。事務室用と担任の指導用に二組作製している。事務室用は事務室内設置の棚に保管しており、担任用は各クラス担任がそれぞれの研究室に保管している。卒業後は担任用を速やかに学生部で回収し破棄し、事務室用は、保管した後破棄している。

### ② 住所録

各クラス別の学生の氏名、住所、電話番号と教職員（非常勤を含む）の氏名、住所、電話番号を記載し製本した小冊子。なお、教職員には事前調査を行い希望項目のみを記載している。専任教職員に一冊ずつ配付していて、各自が責任を持って保管している。冊子には通し番号を打ち、年度ごとに新旧の冊子と交換して管理の徹底を図っている。

### ③ 学生証発行用データ

学生証発行のための氏名、生年月日、住所の一覧データ。事務室内の棚に保管。卒業後速やかに破棄している。

### ④ 各種奨学金申請書類控

日本学生支援機構や石川県等の奨学金申請のための書類一式の写し。事務室内の棚に保管。各団体の法律規定に則り破棄している。

### ⑤ 自家用車登録証控

氏名、住所、電話番号、車種、色、ナンバー、任意保険加入会社名を記入させた自動車通学許可申請のための登録証。事務室内の棚に保管。卒業後速やかに破棄している。

### ⑥ 健康診断書控

毎年4月に実施している本学の健康診断による全学生の受診データの控え。保健室にて保健室看護師が保管。2年次のものは、写しを就職用証明書作成のために一部事務室内の棚に保管している。写しは、卒業後速やかに破棄。控えは、卒業後5年間書類倉庫に保管しその後破棄している。

### ⑦ 卒業アルバム

全卒業生の顔写真と氏名（クラス別）と各行事のスナップ写真によるアルバム。申込者全員に送付し、一部のみ事務室の棚に保管している。 ◇参考資料No.22「学生録 様式」

## 【進路支援について】

(1) まず次ページの就職状況表の例示を参考にして、過去3ヶ年の就職状況を学科等ごとに記載して下さい。また就職者一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

平成15年度から平成17年度までの学科別就職状況については、表V-4～V-8のようになっており、3か年平均は、幼児教育学科99.1%、美術学科39.6%、ビジネス実務学科86.4%、専攻科98.0%であった。

表V-4 平成15年度～平成17年度 幼児教育学科の就職状況表

(平成18年3月31日現在)

	17年度	16年度	15年度
(a)卒業生数 =(c)+(d)+(e)+(f)	187人	186人	183人
(b)就職希望者数 [割合 (b)÷(a)]	140人(74.9%)	141人(75.8%)	145人(79.2%)
(c)うち学校で紹介した就職者数 割合 [(c)÷(b)]	112人(80.0%)	127人(90.1%)	126人(86.9%)
(d)うち自己開拓分の就職者数 割合 [(d)÷(b)]	27人(19.3%)	13人(9.2%)	17人(11.7%)
(e)不明・無業者数 割合 [(e)÷(a)]	5人(2.8%)	6人(3.2%)	8人(4.4%)
(f)進学者数	43人	40人	32人

註：(e)の不明・無業者にはパート、アルバイト、家事手伝いを含む

表V-5 平成15年度～平成17年度 美術学科の就職状況表

(平成18年3月31日現在)

	17年度	16年度	15年度
(a)卒業生数 =(c)+(d)+(e)+(f)	65人	58人	79人
(b)就職希望者数 [割合 (b)÷(a)]	45人(69.2%)	32人(55.2%)	50人(63.3%)
(c)うち学校で紹介した就職者数 割合 [(c)÷(b)]	9人(20.0%)	12人(37.5%)	13人(26.0%)
(d)うち自己開拓分の就職者数 割合 [(d)÷(b)]	8人(17.8%)	3人(9.4%)	5人(10.0%)
(e)不明・無業者数 割合 [(e)÷(a)]	35人(53.8%)	24人(41.4%)	34人(43.0%)
(f)進学者数	13人	19人	27人

註：(e)の不明・無業者にはパート、アルバイト、家事手伝いを含む

表V-6 平成15年度～平成17年度 ビジネス実務学科の就職状況表

(平成18年3月31日現在)

	17年度	16年度	15年度
(a)卒業生数 $= (c)+(d)+(e)+(f)$	156人	126人	130人
(b)就職希望者数 [割合 $(b) \div (a)$ ]	137(87.8%)	105人(83.3%)	102人(78.5%)
(c)うち学校で紹介した就職者数 割合 $[(c) \div (b)]$	90人(65.7%)	67人(63.8%)	79人(76.7%)
(d)うち自己開拓分の就職者数 割合 $[(d) \div (b)]$	36人(26.3%)	20人(19.0%)	8人(7.8%)
(e)不明・無業者数 割合 $[(e) \div (a)]$	22人(14.1%)	28人(22.2%)	28人(21.5%)
(f)進学者数	8人	11人	12人

註：(e)の不明・無業者にはパート，アルバイト，家事手伝いを含む

表V-7 平成15年度～平成17年度 短期大学部全体の就職状況表

(平成18年3月31日現在)

	17年度	16年度	15年度
(a)卒業生数 $= (c)+(d)+(e)+(f)$	408人	370人	392人
(b)就職希望者数 [割合 $(b) \div (a)$ ]	322人(78.9%)	278人(75.1%)	297人(75.8%)
(c)うち学校で紹介した就職者数 割合 $[(c) \div (b)]$	211人(65.5%)	206人(74.2%)	218人(73.2%)
(d)うち自己開拓分の就職者数 割合 $[(d) \div (b)]$	71人(22.0%)	36人(12.9%)	33人(11.1%)
(e)不明・無業者数 割合 $[(e) \div (a)]$	62人(15.2%)	58人(15.7%)	70人(17.9%)
(f)進学者数	64人	70人	71人

註：(e)の不明・無業者にはパート，アルバイト，家事手伝いを含む

表V-8 平成15年度～平成17年度 短期大学専攻科の就職状況表

(平成18年3月31日現在)

	17年度	16年度	15年度
(a)修業者数 $= (c)+(d)+(e)+(f)$	40人	35人	35人
(b)就職希望者数 [割合 $(b) \div (a)$ ]	37人(92.5%)	32人(91.4%)	35人(100%)
(c)うち学校で紹介した就職者数 割合 $[(c) \div (b)]$	34人(91.9%)	31人(96.9%)	34人(97.1%)
(d)うち自己開拓分の就職者数 割合 $[(d) \div (b)]$	3人(8.1%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)
(e)不明・無業者数 割合 $[(e) \div (a)]$	0人(0.0%)	3人(9.4%)	1人(2.9%)
(f)進学者数	3人	1人	0人

註：(e)の不明・無業者にはパート，アルバイト，家事手伝いを含む

**(2) 学生の就職を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を記述して下さい。**

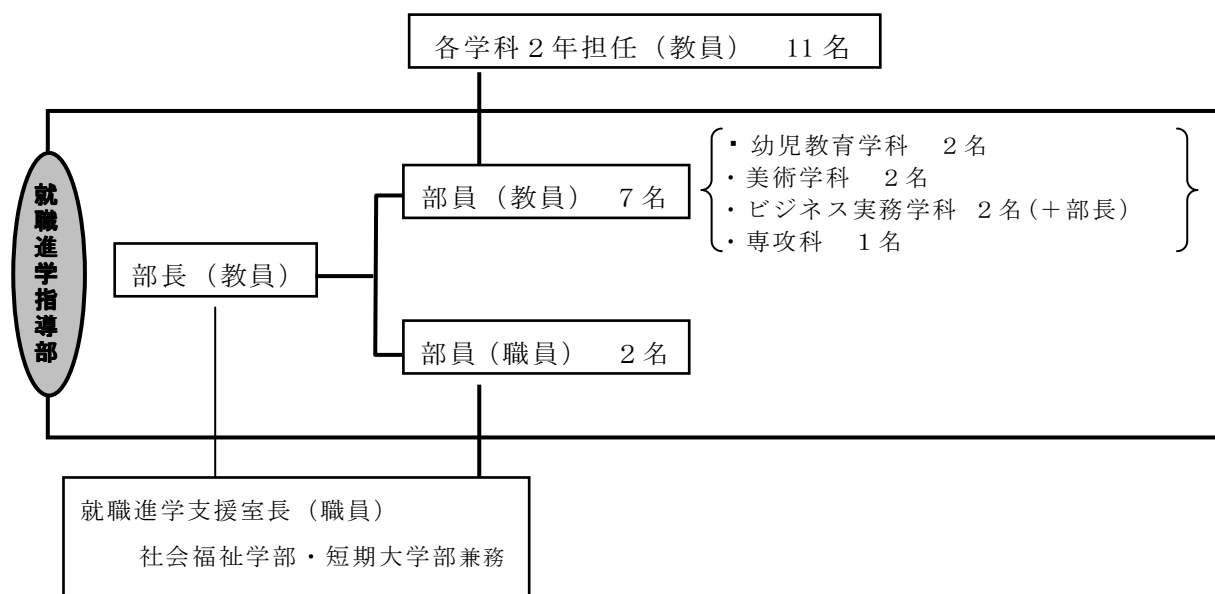
本学における大きな特徴は、教員が就職支援活動の大部分を担っていることである。

「就職進学指導部」内には、専従職員2名が事務業務や窓口業務を担当している。また、求人票依頼文書の発送や求人票の受付業務などについては、社会福祉学部の就職進学支援室が窓口になるなど、業務の一部は短期大学部と社会福祉学部の両学部で共有している。これらが、事務部門が担っている主な業務である。

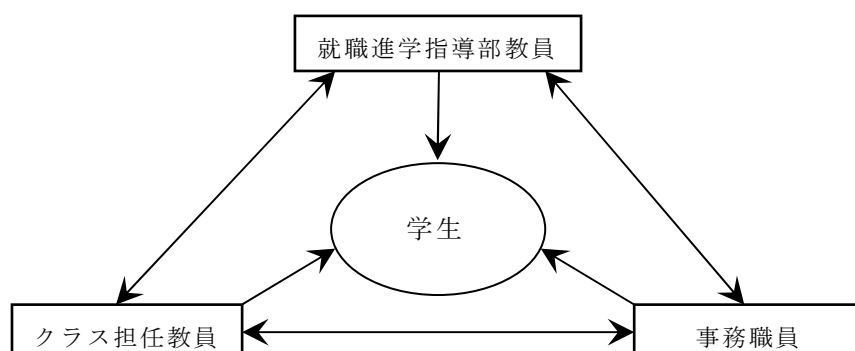
前述以外は、学生への指導や支援だけでなく、求人先への依頼やお礼なども教員がその業務を行っている。具体的には、教員の校務分掌として設けられている「就職進学指導部」所属の教員が、それぞれ授業の合間を利用して指導室に待機し、学生の就職指導や来訪者面談などの業務に当たっている。また、学生全体への情報伝達や学生個々人の進路相談などについては、クラス担任教員がその任を担うシステムになっている。

組織図及び実際の支援活動は下図のようになる。

〔図 V - 3〕 短期大学部 就職進学指導部の構成



〔図 V - 4〕 学生への支援活動フロー



平成 17 年度からは指導部定例会議を毎月開催しており、指導部教職員のコミュニケーションやチームワークは大変良好である。合わせて、指導室内に 2 年担任教員用情報ボックスを設置したため、担任教員と事務職員のコミュニケーションも活発化してきた。

また、原則月 1 回開催される教授会においても、進路内定状況報告を逐次行い、教員全員に対して学生への就職支援意識の共有を図っている。

本来、学生への支援は、学生自身を日頃から観察し、学生を理解している教職員が相談支援に関わるのが理想である。その意味では、本学の就職支援は、学生にとって望ましい形をとっており、きめ細かなサービスをサポートしていると考えている。

**(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。**

就職進学指導室は、約 110 m<sup>2</sup>という比較的広いスペースと、明るい間取りの独立した部屋を有し、しかも食堂側とキャンパス内庭園側の 2 か所に出入口があり、学生の入りやすい環境が整っていると言える。

しかし、目標の明確でない学生にとっては入りにくい部屋でもあるので、ドアを極力開放したり入口付近に関心を引くような情報を掲示するなどの工夫をしている。

次に、就職情報の提供については、以下のようなものが挙げられる。

① 短大が受け付けたすべての求人情報の提示

一覧表は掲示し、個別の求人票はテーブル上にファイル展示している。

② 行政・業者等からの情報掲示及び展示

ポスターは指導室内外に掲示し、配付資料などは自由に持ち帰ることができるように展示・案内している。

③ 情報検索・エントリーのためのパソコン 3 台と使用マニュアル

使用方法が分からない学生には事務職員が直ちに対応できるようにしている。

④ 卒業生からの受験報告書ファイルの展示

個人情報保護のために卒業生の氏名を消去したものを提供している。

⑤ 「就職の手引き」の作成及び 2 年生全員への配付

2 年生前期開始ガイダンス時に、説明会を開催している。

⑥ 企業訪問・採用試験用マニュアル、関連ビデオ、参考図書等の配備

⑦ 「就職模擬試験」の実施とアフターケア

1 年次後期から 2 年前期開始時にかけて、就職模擬試験を 2 回実施し、その結果については、担任教員を通じて学生の勉学奨励に活用している。

⑧ 「模擬企業ガイダンス」・「模擬面接会」の開催

学科の特性に合わせた方法で、学生たちが対象分野の人事担当者と面談することのできる場を提供している。

⑨ 「就職活動状況調査」の定期的実施

担当教員が個別面談を行い、学生の活動状況を定期的に調査し、学生の動向把握と就業意識の向上を図っている。

⑩夏季休業中の「学生面談」の実施

短大生の進路決定に関わる最大の岐路となる夏休み期間中に、「学生面談日」を設け、学生は必ず1回以上は担任教員と面談するシステムをとっている。

◇参考資料No.13「平成17年度就職進学指導部活動報告」

**(4) 過去3ケ年の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。**

大学は、学生にどのような情報を提供し、どの程度のサポートをすべきか、その可能性の追求が就職に関する教育活動であると認識している。本学では、就職進学指導部を中心に、関係者はよく努力していると思う。

**〔幼児教育学科〕**

過去3か年とも、就職率はほぼ100%であるが、何よりも評価したいのは、クラス担任を含む本学科の就職指導担当(2名)の教育活動である。日頃から全学生の顔と名前はもちろん、本人の性格、学生間の情報までも収集に努めていることである。またどのクラス担任も自分のクラスの学生の就職に関心を持ち、就職担当と連絡を密にしている。その結果、学生は年度末までに可能な限り、適材適所に収まっていくと考えている。

**〔美術学科〕**

美術学科における就職率は、平成15年度36.0%、平成16年度46.9%、平成17年度37.8%である。これは、本学の幼児教育学科やビジネス実務学科の就職率に比較すると相当悪い数字であるが、他の美術系大学、学科などと比較すると特に低いとも言えない。

ある程度家庭の経済力もあり創作意欲も旺盛な学生たちの多くは、短大の2年間はあまりにも短いと考え、短大卒業後も大学編入や本学研究生として残ることを希望する。

就職意識を高めるねらいで、平成17年度は6社の企業人事担当者を招き、初めて「模擬就職ガイダンス」を実施した。また、平成18年度から「経済学(企業経営論)」、「キャリアガイダンス」を盛り込むことにした。これを実効あるものにしていきたい。

本学科の就職先は多種多様であるが、今後、福祉系の職場やデジタルコンテンツ制作などの新しい職種について、更に研究を進めていく必要があると考えている。

**〔ビジネス実務学科〕**

ビジネス実務学科の過去3年の就職率は、15年度は84.5%、16年度は82.9%、17年度は92.0%の結果を示している。就職率の高低より、クラス担任が学生一人一人の就職指導について、就職進学指導部と綿密に連携している点が、本学科の特徴である。

また、ほとんどが専門就職であり、石川県を中心に北陸地方に就職している。昨年、カリキュラムに医療事務資格講座を開設してから、病院への就職口も増え、公務員を除いた多岐の職種へと広がりを見せている。

問題点としては、学生の業種と職種への理解不足、男子学生の就職先、数は少ないがニート、フリーターへの対策を含めた総合的キャリア教育の実践等を痛感している。

**(5) 過去3ヶ年の進学（4年制大学，専門学校等）及び海外留学の実績を示し，その支援はどのような方法，体制で行ったかを記述して下さい。**

平成15年度から平成17年度までの卒業生の進学実績は，次のようになっている。

表V-9 進学実績

卒業年度	四年制大学	専門学校	本学専攻科	本学研究生
平成17年度	13人	4人	41人	9人
平成16年度	13人	2人	38人	18人
平成15年度	11人	4人	32人	23人

なお，海外留学については，本学は地域に根ざした実務型人材育成という特徴から，ほとんど希望者がいないのが現状であるが，過去3年間における在学中の留学については次のようになっている。卒業後の留学については把握していない。

① ビジネス実務学科2年生1名

平成16年6月～平成17年1月，米国内短期大学（パインマナーカレッジ）に留学。このために平成16年4月～平成17年3月まで休学，4月に復学した。

② ビジネス実務学科1年生1名

平成17年10月～平成18年3月，中国に留学後退学

進学に関する支援体制については，進学希望先を本学内と学外に分け，それぞれに適した方法をとっている。

(1) 本学内（幼児教育学科専攻科・美術学科研究生・社会福祉学部）

- ・幼児教育学科専攻科及び美術学科研究生：学生の募集から選抜まで一貫して各学科の教員で実施している。
- ・社会福祉学部：2年次初期の段階で，社会福祉学部入試広報室による説明会を開き，興味のある学生には当指導室において個別相談や推薦を行う。

(2) 学外

- ・他大学から送られてくる情報を進学希望者に提供し，大学への照会や推薦の支援を行っている。この場合も，クラス担任と連携をとっている。

**【多様な学生に対する支援について】**

**(1) 過去3ヶ年の留学生の受け入れ状況を示し，その学習支援，生活支援はどのような方法，体制で行っているかを記述して下さい。**

①概要

本学の教育目標に掲げた「国際化」において，留学生の受け入れもその重要な仕事の一つである。1983年に留学生を初めて受け入れて以来，年々受け入れ数を増加させ，ここ数年を見ると，1学年10名程度の学生が在籍している。ビジネス実務学科がほとんどを占め，受け入れ当初に多かった美術学科が少なくなっている。また，出身国別で見ると，すべて

中国からの留学生である。過去3年間の受け入れ状況を表にすると以下のようになる。

表V-10 留学生の受け入れ状況

学 科	学 年	2005 年		2004 年		2003 年	
		5/1	10/1	5/1	10/1	5/1	10/1
美 術	1 年	2	1	1	1		
	2 年	1	1			2	2
ビジネス実務	1 年	4	4	10	10	13	13
	2 年	10	10	13	13	11	11
幼児教育	科目等履修生	1	1				
ビジネス実務						10	10
留学生別科		10	13	3	6		
	計	28	30	36	36	39	38

国別では、中国出身者しかいないが、これは中国で現地入試を行っていることが要因である。

留学生については、留学生センターで様々な面での支援を行っている。留学生センターは、7名の担当教員(内1名は社会福祉学部)と5名の担当職員で構成されている。このセンターで、留学生の入学から卒業までのすべての面に関わっている。

### ②学習支援

留学生センターでは、一般ガイダンスに先立ち留学生のガイダンスを行い、中国語に訳した学生便覧等を渡して履修登録の一助にしている。

また、教務部の協力を得て、特例科目として日本語Ⅰ、日本語Ⅱの2科目を開講している。これらの科目では、単に日本語能力の不十分さを補うだけでなく、レポート、論文の書き方など本学で必要となる日本語を教えている。

また、過去の経験から、留学生が最も苦勞する科目については、留学生向けの授業を別途開講している。一つは、コンピュータを使用する授業である。特に大変なのは日本語の入力である。以前は留学生も日本人と同じ授業を受講していたが、日本人学生の指導に支障をきたしたので分離した。

もう一つは英語である。この科目については、留学生の個人差は大きい。できる学生は日本人学生をはるかに超える能力があるが、概して能力の低い学生が多い。中には、外国語として日本語を勉強していたので、まったく英語を勉強したことがないという学生もいる。これらの学生に対して、基礎的などころから始める英語の授業を行っている。

一方、日本語能力、英語能力の十分ある学生については、通常の授業に参加させている。

### ③生活支援

中心的な役割を果たすのは、留学生センターである。

まず、留学生は入学するために日本へ入国するが、ほとんどの学生は初めての日本であり、空港へ降りても、電車のチケットを購入することすら不安に思うであろう。そこで、

希望する学生には、関西空港、小松空港、富山空港、金沢駅等に迎えに行くサービスを行っている。

次に、住居の問題である。女子学生については、金城短大寮に入居させているが、男子学生については、アパートの世話をすることになる。一定の条件を満たした者については、学校が連帯保証人となって契約している。

留学生にとって、大変関心のあるものは奨学金のことである。授業料は、原則として、全留学生に対してその半額を免除している。そのほかに、文部科学省の私費外国人留學生学習奨励費、石川県の私費外国人留學生奨学金などの奨学金がある。これらの奨学金については、留学生に案内して、希望者に対して面接を行い、推薦者を決定している。

留学生への厚生的事業としては、6月に理事長主催の昼食会を行い、親睦を深めるとともに、留学生センター教職員が持ち寄った物品を、ゲームを通してプレゼントしている。また、研修旅行を行っている。学校のバスを使用して本年度は奈良へ旅行した。そのほか、学園祭の模擬店への出店に助言・指導している。

順調に留学生活を送り、卒業となると、その後の進路が問題になってくるのは留学生も日本人も変わらない。本学の場合は、ほとんどの学生は進学していく。留学生センターでは学生の進路希望を調査し、本学に推薦枠のあるものについては紹介している。それ以外についても、相手大学にコンタクトを取り、できるだけ便宜を図っている。また、就職希望者も若干いるが、留学生に対する求人もあまりなく、センターとしても開拓する余裕もない。したがって、学生本人の就職活動に頼らざるを得ない。センターとしては、就労ビザの取得など側面からサポートしている。

#### ④問題点

一番大きな問題は、留学生に関して、専任のスタッフがいないことである。留学生センターの教員も職員もすべて兼務であり、ほかに様々な仕事を抱えながら留学生に関する仕事をこなしている。就職の項でも述べたが、結局、人手が足りず留学生に十分なサポートができないことがある。国際交流は留学生だけが仕事ではないので、こちらからの派遣なども含めて、国際交流という枠で組織を整理すれば、専任スタッフを置くことの可能性も出てくる。留学生もいよいよ量から質の時代になってきた。いかにより学生を入学させ、満足させる教育を提供するかが、今後ますます求められる課題である。

◇参考資料No.23「金城大学外国人留學生募集要項」

◇参考資料No.24「学生便覧」中国語版

**(2) 過去3ケ年のいわゆる社会人学生の受け入れ状況を示し、その学習支援はどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。**

本学では、社会人のための特別な入学試験は行っていないが、受け入れについては吝かではなく、平成15年度入学者で2名、平成16年度入学者で2名、平成17年度入学者で5名の社会人入学者がいる。これらの学生の中の大学等の卒業生には、既得単位の認定などの履修指導を行っている。

**(3) 過去3ヶ年の障害者の受け入れ状況を示し、その支援はどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。**

本学では、過去3か年の間に障害を持った学生の入学はなかった。

**(4) 過去3ヶ年の長期履修生の受け入れ状況を記述し、その学習支援、生活支援はどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。**

本学では、過去3か年の間に長期履修生の受け入れはなかった。

### **【特記事項について】**

**(1) この《V学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。**

#### ① 成績不良者への支援

本学ではクラス担任制をとっており、成績不良者への助言・相談はクラス担任がきめ細かに対応し、保護者との相談なども担任が行っている。

教務部では、学生ごとの不認定科目と不認定理由（時数不足・追再試未手続き・試験欠席・レポート未提出など）、さらには卒業等への影響（選択科目も含む）を一覧表にまとめ、ガイダンス直前の教授会で審議している。これにより、学生の学習状況の把握ができ、クラス担任も含め全教員で学習指導上の情報の共有化が図られている。また、卒業要件に関わる単位の不認定学生に対しては、その発生学期ごとに保護者あてに警告状と共に成績表を送付し、保護者との連携をとっている。

卒業要件に関わる単位の不認定学生に対する再履修に関して、卒業に必要な単位のすべてが再履修できるように時間割を作成している。また、履修登録時、再履修が必要な学生のためのガイダンスを開き、教務担当者による個別の履修相談・指導を行っている。以上の取り組みで、卒業が危ぶまれていた学生も卒業している。

#### ② 学生に対する表彰制度

本学では、卒業時に、特に良い成績を修めた学生又は顕著な活躍を見せた学生に対して、以下のような表彰を行っている。

- ・ 理事長賞（3名）：各学科1名
- ・ 学科長表彰（8名）：幼児教育学科・ビジネス学科では各クラス1名ずつ
- ・ 美術学科卒業制作：優秀賞（6名 各コース）  
：努力賞（6名 各コース）

一方、ビジネス実務学科では、検定試験を難易度に分けて独自にポイント化し、卒業時に、最もポイントの多かった学生4名に学科長から表彰を行っている。